

世界の石油需要 今後も増加へ

人口増加にともなう新興国の需要が旺盛

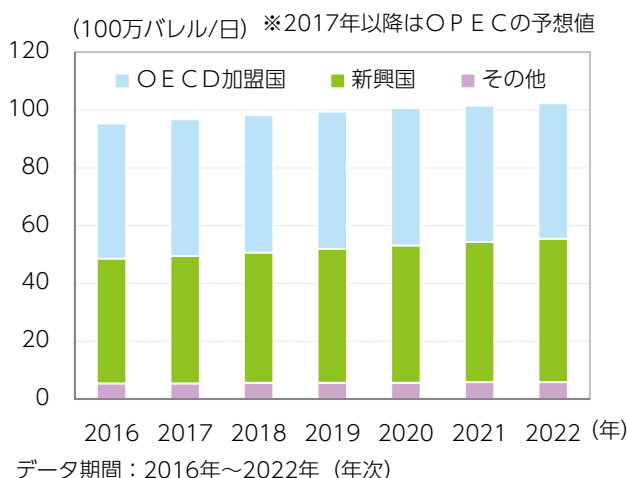
- ▶ 石油輸出国機構（OPEC）が『世界石油見通し』で、中長期的な石油需要見通しを発表。
- ▶ 先進国の需要は減少する一方、人口の増加に伴い新興国の需要は今後も増加する見込み。
- ▶ 産油国の政治リスクにより原油価格は底堅く推移。今後のOPECの見通しが注目される。

石油輸出国機構（OPEC）は7日に発表した年次報告書である『世界石油見通し2040』において、中長期的な世界の石油需要見通しを発表しました。主な内容は以下の通りです。

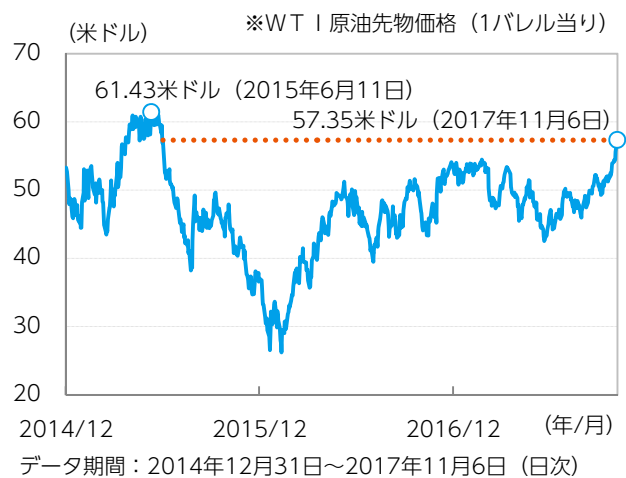
- ✓ 2022年の石油需要は2016年から約690万バレル/日増加し、1億230万バレル/日に（図表1）。
- ✓ 中国、欧州などで、これまでよりも高い消費が見込まれる。
- ✓ 2040年までに需要は1,580万バレル/日増加し、1億1,110万バレル/日に達する。
- ✓ 2040年までの間、先進国の需要は減少する一方、新興国は人口の増加に伴い2,380万バレル/日増加する。
- ✓ 長期的には、インドのエネルギー需要の伸び率が2019年に初めて中国を上回る見込み。
- ✓ 再生エネルギー技術の進展や電気自動車の普及が進めば、需要は標準シナリオに比べて下振れする可能性も。

原油（WTI原油先物）価格は、足元ではサウジアラビア王室内部対立の深刻化懸念や、イラク北部の少数民族・クルド人自治区の独立問題等を受けて底堅く推移し、11月6日時点で、およそ2年半ぶりの高値水準となっています（図表2）。原油価格の上昇は、輸入物価の高騰を通じて国内の物価を押し上げることから、輸入国の今後の金融政策に影響を与えることも考えられます。また代替エネルギーへの切り替えなどが、今後のOPECの石油需要見通しに影響を与える可能性もありそうです。

図表1：世界の石油需要は増加傾向にある



図表2：原油価格は2年半ぶりの高値を更新



出所：図表1はOPEC『World Oil Outlook 2040』、図表2はブルームバーグのデータを基にニッセイアセットマネジメントが作成

●当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。●当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。●投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。●手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品をお勧めするものではないので、表示することができません。●当資料のいかなる内容も将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第369号 加入協会：一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会